

**循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究推進事業
平成28年度 若手研究者育成活用（リサーチ・レジデント）事業
受入希望研究者一覧**

下記4課題の研究代表者より、リサーチ・レジデント受入の希望がありました。

1.

研究課題名	研究代表者	所属施設・職名	開始年度	終了年度
成人眼科検診の有用性、実施可能性に関する研究	山田 昌和	杏林大学医学部眼科学教室・教授	28	30

(受入希望研究者)

受入研究者	職名	受入研究機関・部署	受入研究者が分担する研究項目
山田 昌和	教授	杏林大学医学部眼科学教室	臨床研究計画の立案と実行
研究代表者			
受入期間	平成28年8月1日 ~ 平成29年3月31日 (8ヶ月)		
リサーチ・レジデントに希望する研究の概要			
<p>健康寿命の延伸のために視覚の維持は必須であり、眼疾患早期発見のための効率的な眼科検診プログラムの確立が急務であると考えられるが、その効果や精度を具体的なデータを基に検証する研究はなされていない。眼科検診のスキームを大きく分けると、1) 特定健診時に眼底写真撮影を行い、別の場所で読影を行う、2) 特定健診時に眼科で眼底検査を行う、3) 眼科で行う包括的眼検査、の3つがあるが、各々の方式の精度評価はなされていない。本研究では、眼科検診スキームによる精度、実施可能性の違いを検討し、精度評価を行うことを目的とする。眼底写真撮影と包括的眼科検査の2つの検診方法の精度として、陽性適中率だけでなく、感度と特異度まで評価できる研究デザインを組む。得られた結果と申請者らが確立しているマルコフモデルを用いて、成人眼科検診の医学的効果と医療経済的効果を検証する。平成28年度は研究プロトコルの確定と参加施設の選定を行い、データセットを取り扱うシステムの開発を行う。検査データ収集のための準備を整え、研究参加者を集めてスタートアップミーティングを行う。リサーチレジデントには臨床疫学とがんか臨床の知識、多施設共同研究に関わる協調性、経験が求められる。</p>			

2.

研究課題名	研究代表者	所属施設・職名	開始年度	終了年度
70歳、80歳、90歳の高齢者の歯・口腔の状態が健康長寿に及ぼす影響についての前向きコホート研究	前田 芳信	大阪大学大学院歯学研究科顎口腔機能再建学講座 有床義歯補綴学・高齢者歯科学分野・教授	26	28

(受入希望研究者)

受入研究者	職名	受入研究機関・部署	受入研究者が分担する研究項目
前田 芳信	教授	大阪大学大学院歯学研究科顎口腔機能再建学講座 有床義歯補綴学・高齢者歯科学分野	高齢者の口腔機能評価、統計学的分析、ならびに学術大会、学術雑誌での成果発表
研究代表者			
受入期間	平成28年8月1日 ~ 平成29年3月31日 (8ヶ月)		
リサーチ・レジデントに希望する研究の概要			
<p>本研究では、咀嚼機能低下や歯周病という口腔の要因によって、動脈硬化性疾患や運動機能障害、ロコモティブシンドローム、認知症などが発症するという仮説について、80歳、90歳の約400名の高齢者を対象に、両者の様々な危険因子を加えて分析を行うことを目的とする。我々のグループは、歯学のみならず、医学、栄養学、心理学、社会学の各分野の専門家が参加した学際的な研究を進めている。各専門領域のデータに加えて、高血圧、動脈硬化、アルツハイマー病、老化制御などの遺伝素因について可能な限り網羅的に解析し、それら遺伝因子の影響や、生活習慣等の環境因子を考慮に入れたうえで、咀嚼機能と全身疾患・機能低下との関連について統計解析する。</p> <p>リサーチ・レジデントの候補者には、高齢者の口腔機能評価とともに、口腔機能と全身疾患との関連について、遺伝素因を考慮した多変量解析を担当してもらう。そして、口腔機能と全身疾患との間の環境遺伝交互作用についての分析を通じて、健康長寿に関する要因の解明を目指す。また、研究成果を英文の有名学術雑誌で発表してもらう予定としている。リサーチ・レジデントの候補者には、すでに遺伝子解析の実験手法や、高度な統計学的な知識を備えており、将来的に、健康長寿の研究分野において、国際的リーダーシップを発揮する研究者に育ってくれるような人を期待する。</p>			

3.

研究課題名	研究代表者	所属施設・職名	開始年度	終了年度
受動喫煙防止等のたばこ対策の推進に関する研究	中村 正和	公益社団法人地域医療振興協会ヘルスプロモーション研究センター・センター長	28	30

(受入希望研究者)

受入研究者	職名	受入研究機関・部署	受入研究者が分担する研究項目
大森 久光	教授	熊本大学 大学院 生命科学研究部	COPD等のたばこの健康影響の啓発と禁煙を推進する保健医療システムの構築
研究分担者			
受入期間	平成28年8月1日～平成29年3月31日(8ヶ月)		
リサーチ・レジデントに希望する研究の概要			
<p>本研究では「受動喫煙防止等のたばこ対策の推進に関する研究」のうち、COPDを含めたたばこの健康影響の効果的かつ持続的な啓発方策を検討するため、モデル都道府県において医師会や行政、職域、保険者等の連携により、医療や健診等の場で健康影響の啓発と禁煙を推進するための保健医療システムの構築とその効果検証を行う。研究の一環として、質問票によるCOPDの簡易スクリーニングと禁煙支援がCOPDの認知度や禁煙率の向上につながるかをRCT研究により明らかにする。さらに本研究により、政策の進展度や効果を経年的に評価するための指標とその情報収集のための仕組みを国ならびに都道府県単位で確立することを目指す。</p> <p>求める研究能力としては、上記研究を遂行するために、公衆衛生学教室等にて大学院修士課程以上を修了し、疫学研究等の実績を有する者を求める。疫学研究の手法を理解し、研究の立案、実施およびデータの解析、評価を学術的にできる能力を有する者を求める。</p>			

4.

研究課題名	研究代表者	所属施設・職名	開始年度	終了年度
小中学生の食行動の社会格差是正に向けた政策提案型研究	橋本 英樹	東京大学大学院医学系研究科 公共健康医学専攻保健社会行動学分野・教授	27	29

(受入希望研究者)

受入研究者	職名	受入研究機関・部署	受入研究者が分担する研究項目
藤原 武男	教授	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科国際健康推進医学分野	社会疫学・自治体調査担当
研究分担者			
受入期間	平成28年8月1日～平成29年3月31日(8ヶ月)		
リサーチ・レジデントに希望する研究の概要			
<p>足立区では受け入れ研究者との共同研究として平成27年度に実施した足立区子どもの生活健康実態調査の追跡調査を計画しており、この研究遂行のためには足立区の現場責任者との交渉能力を有し、データ構造を理解した上での高度な解析能力を有していることが必要不可欠である。さらに、他の学年でも質問紙および栄養調査を実施するため、子どもの発達段階および栄養調査への理解も必須である。</p> <p>また、平成28年度より妊娠期から子育て期までの切れ目のない支援(ASMAP: あだちスマイルママ&エンジェルプロジェクト)を重点的に行うことになっており、平成27年度の調査結果から、子どもの生活習慣や子どもへのポジティブな関わり的重要性を早期から教えていくことによって子どもの健康的な食生活を促進し、肥満を予防するような親支援プログラムを実施していくことが期待されている。</p>			